



オリーブ通信

2020年
11月号
2020.11.28発行
第227号

<http://www.ne.jp/asahi/olive/kusatsu/>

あたらしい仲間(なかま)をしょうかいします



ルミ・アフメド
アクタ・エムエスティ・ナズニン
(バングラデシュ)
日本で生活するために私と息子は
オリーブで日本語をならっています。



チャン・ティー・ハウ
(ベトナム)



オンニス・パオロ・アリスティデ
(イタリア)
中国から家族と一緒に引っ越し
て来ました。日本の社会に溶け
込むために、日本語をよく勉強し

中川先生のへんてこ日本語

ご安心してお買い物いただけます

122



新型コロナウイルスの感染拡大予防のため、様々な対策が講じられている。いわゆる「三密」を避けるというのもそのひとつである。

先日ある食品スーパーへ行ったら、「窓を開け、換気をしておりますので、ご安心してお買い物いただけます」というアナウンスが聞こえてきた。この「ご安心して」に「オヤッ」と思った。「ご安心の上」ならどうか。それともなんだか仰々しい。そもそも「の上」は、「ご確認の上」「ご購入の上」「お申し込みの上」などのように、「てから／ののち」の意を有し、「確認してから」「はいいとしても」「安心してから」はおかしい。ではなぜ「ご安心して」が不可なのか。「ご安心ください」「ご注意ください」なら、話し手の聞き手に対する敬語表現として許される。もともと「ご安心して」「ご注意して」は、敬語として間違いであり、原則的には「ご安心になって」「ご注意になって」とするのが正しくなるが、それもなんだかしつくりこない。

「安心して」とするのがよからうが、「安心して」は、後件「買い物をする」の付帯状況となっているので、わざわざ敬語にするには及ばない。「注意してお通りください」「マスクを着用して出かける」も然り。決して「ご注意して」「ご着用して」とはならない。

私たちの耳は不思議なもので、おかしな日本語でも、聞き慣れてしまると、それが正しい日本語としてインプットされてしまう。正しいかどうか、よくご確認の上、注意喚起してお使いください。

京都外国語大学 日本語学科教授 中川良雄

KIFAさんのZoom授業を見学してきました



KIFA(草津市国際交流協会)は、南草津にある立命館大学の施設を借りて、日本語広場「きずな」というボランティア日本語教室を開催しています。今年で10年になるそうです。学習者は留学生が多く、学校が長期休暇に入るときは「きずな」もお休みになります。今年はコロナの影響で春からは大学生と同じく誰もキャンパスに入れない状況が続いています。

10月最終の土曜日、KIFAさんのZoomを使った授業を見学させていただきました。

私が参加したのはフリートークのクラスでした。先生1人に生徒さんが6人。

授業の始まりは……。

先生がお話の枕からさりげなく本日のテーマがふられました。今回は、「びっくりしたこと」でした。

日本に来てびっくりした体験談をそれぞれの生徒さんが日本語で話をするという進め方です。

各自のレベルによって使う単語や話をする時間が違いますが、どの方も話そうとする気持ちが伝わります。

先生も、話を聞きながら話しやすいように進行されてました。

Zoomを使っのフリートーク授業では、互いの話がしっかり聞け、先生もコメントしやすい。

KIFAの先生は、テーマを出して体験談を話すように授業されてました。これは参考になりました。

私も授業でこの方法を試してみよう。

Zoom授業は時間が決まっているのでメリハリのある授業運営がされてます。

授業は70分。あっという間に終わり、貴重な体験をさせていただきました。

後日、見学させもらった先生とお話できました。

ご自身も授業運営には試行錯誤されているとのこと。フリートークは教科書があるわけではないので、工夫しがいもあるが正解がない。

生徒さんが途切れずに参加している事が、授業運営が受け入れられている事だと思います。

コロナ第3波に備えて、Zoomの可能性は広がっているようです。

(ナカミゾ)

Zoom授業について聞いてみた



中溝 Zoomで授業を始めるきっかけはどういったものでしたか？
いつ頃から始められたのですか？

中西さん 始めたのは7月の授業からです。
日本語教室としては、立命館の「きずな」だけですが、他にやさしい日本語サロンという、日本人と外国人が交流する場所で、先にZoomを使っており、その流れで始まりました。

鶴田さん コロナ禍の影響で立命館の授業がなく、外国人も日本語を忘れてきているという話を聞いていたので、何かしようとなったときにオンラインでの授業にいきました。

中溝 参加者は何人くらいですか？

中西さん 最初から30人は居ました。夏タームとして7月～9月をやって、今は2期目の10月～12月までです。三カ月ごとにタームを区切っているんです。今の秋タームは12月で終わります。また新たに冬タームとして1月から募集をします。

中溝 コロナ禍が落ち着いたら対面の授業の復活もありでしょうか？

鶴田さん ミーティングでその話も出ました。実際に会いたいという生徒さんもいるし、実際に会ってこそ教えられる内容もあるということで、みんな対面授業をやりたい気持ちはあります。しかし、ちょっとまだ不安があるかな、という意見がありました。

中溝 実際の対面もありつつ、オンラインも併用していくのが新しい形で定着するかもしれないですね。

鶴田さん そこも含めて、来年 どうするかは全く白紙の状態です。

中西さん 教材はすべて電子データ化されているので、自由に引き出せるようになってます。

鶴田さん PDF にしてもらって、クラウド上にあります。

中溝 先生側が生徒さんに、事前に授業で使うテキスト、この授業でこのテキストを使いますよ、という案内をすれば、生徒さんは事前に入手して勉強ができるということですね？

鶴田さん&中西さん 生徒さんがテキストを丸ごと持っているという状態ではなく、その週に勉強するところを、水曜日くらいに事前にデータを送ります。グループのラインにアップしてます。

中溝 いままでZoomの授業をしていて、感じているメリットとかデメリットはありますか？

中西さん メリットのほうが多いです。まずは実際行く時間が短縮されます。

スタッフ、生徒双方で時短できます。

次に同時に授業がスタートできる事。実際、対面の場合は生徒がなかなかそろわなくて、スタートも遅れていましたが、今は事前にグループ化もできており、開始と終了が同時です。

鶴田さん 事前の申込制になっているので、先に申し込まれた生徒さん同士でグループ分けができ、そのグループにはどのスタッフが対応するか、すべて事前準備ができるので、スタッフも事前に準備ができるし、行き当たりばったりの授業にならない、というメリットがあります。どこからでもパソコンで参加ができるので、お休みをしなくていい。

卒業して帰国した生徒さんたちも聞きつけて参加希望され、そこから色んな広がりがあるのもいいと思います。スタッフも東京に在住している元スタッフも参加してくれています。

中西さん デメリットは、対面と違い、個人的に話せる機会がないので、自分の生徒さん以外の方との交流が深まりにくい。

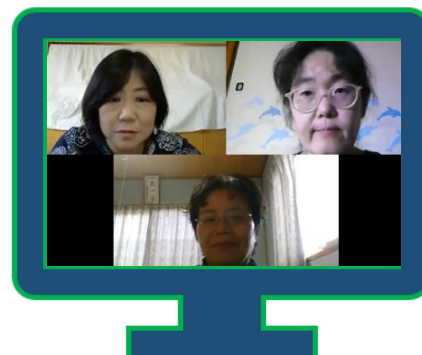
鶴田さん Zoomの操作機械の点では、当初、Zoomのホストができない、という拒否反応されている人もいましたが、最近では、自分たちからZOOMを勉強したいです、と言い出してきています。事務局の人に操作マニュアルを作ってもらい、勉強会を開いてください、という声が上がってそれに感動してます。

中西さん 機械操作が一番大きなハードルでしたが、Zoomも使いやすくなっています。

鶴田さん ずっとオンラインだけでも同じ参加者としかり合いになれないので寂しいですが、ツールとして持っておいたら広がるものがたくさんあるかな、と思います。

最後に

Zoomは今後も使えるツールとして可能性が大きいです。オリーブでもZoomを併用した教室運営があってもいいと思いました。





先月の活動（10月）



今月の活動（11月）

日本語教室
10/3(M) 10/10 10/17 10/31 (4回)

日本語教室
11/7(M) 11/14 11/28 (3回)
オリーブ遠足 11/15(日)



参加人数(10月)

	10/3	10/10	10/17	10/24	10/31
生徒	19	23	16	17	22
先生	17	20	15	11	21



会員の動き(10月)

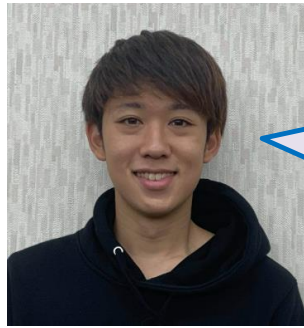
〈退会〉無し
 〈入会〉 田中 佳介さん
 古川 航星さん

新しく入会された先生です

田中 佳介 先生



音楽が好きなので音楽についても話したいと思います。どんどん話しかけてください。



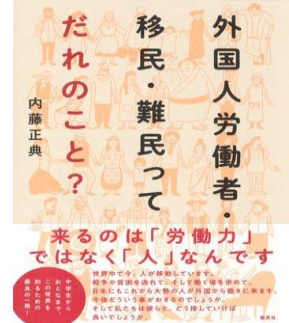
古川 航星 先生

大学ではバスケットボール、アルティメットをしています。みんなで楽しく日本語を学びましょう

本の紹介 『外国人労働者・移民・難民って誰のこと？』

内藤 正典 集英社

オリーブの日本語教室に来る生徒は、ほとんどが滋賀で働いている人たちです。彼らがどのような法律や制度に基づいて日本に来て働いているのかご存知ですか？この本では「外国人労働者」「移民」「難民」はどう違うのか、世界的状況も交えてとてもわかりやすく解説されています。理想だけでは解決できない外国人受け入れ。でも私たちは目の前の外国人と共存していくしかありません。よりよい暮らしを求めて世界中の人々が大きく移動する時代、日本人はどうしていくべきかを考える上で、ぜひ読んでおいていただきたい一冊です。(エンドウ)



編集後記:



10月はハロウィンなるイベントがございました。当日教室では、カボチャのランタン(遠藤作)が笑い、お菓子(福井と生徒2名 作のワッフル)が登場。ワッフルはカボチャとチョコとストロベリー味があり、みんなで美味しく頂きました。生徒さんたちにも喜ばれたハロウィンのサプライズでした。

(ナカミゾ)

